

栄養診療部

■ スタッフ

栄養診療部長	兼児 敏浩 (医師)
栄養診療部副部長	矢野 裕 (医師)
栄養診療部副部長/栄養士長	和田 啓子 (管理栄養士)
管理栄養士	10名 (常勤3名非常勤7名)
併任 医師	1名
併任 看護師	1名
併任 薬剤師	1名

■ 特色

患者個々に沿った適切な栄養管理により、疾病の治療、回復、予防を図るための栄養管理(患者給食、栄養指導等)の様々な業務を行っています。

■ 栄養管理業務

1. 患者給食

患者給食は国によって定められた食事基準に基づいて実施しています。様々な疾病治療の一環であると共に、入院生活を支える楽しみとしての食事となるよう工夫しております。(年間のべ約43万食を提供)

一般的な食事として、朝食はご飯食かパン食の選択、昼夕食については一般食において肉又は魚の定食パターン、麺セット、パンセット、寿司の5種類の選択メニューと、化学療法時の生食禁止対応の3種類があります。また、季節を感じる事ができ、患者さんの健康を願う『行事食』の提供を年中行事に合わせて提供しております。特別治療食は、各種疾患ガイドラインに沿って病態に応じた栄養量へ調整し、医師の指示に基づき提供しております。

「日本人の食事摂取基準(2020年版)」策定に伴い、当院の『食事基準の手引き』を改定しました。多様な患者給食に対応するため、新しい食種の増設や濃厚流動食の種類等の更新を行いました。

給食業務は、株式会社日本ゼネラルフードへ委託しています。日々の給食管理を給食会社と協力して行い、安全で衛生的な美味しい食事を提供できるよう心掛けています。概ね月1回病院職員と給食会社職員にて患者給食業務定例会を開催しています。

また、入院患者さんを対象に食事アンケートを実施し、より良い病院食の提供を目指しています。

2. 栄養診療部運営委員会

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務職員等の委員にて概ね月1回会議を行い、大学病院の栄養部門として業務の改善・改新に努めています。

3. 栄養指導

個人栄養指導

糖尿病、肝疾患、腎疾患、脂質異常症、肥満、高血圧、心疾患、消化管疾患、先天性代謝異常症、癌化学療法、術前術後の栄養管理など、病態を考慮した食事療法を提案しています。入院では病院食に沿った栄養量と食事内容について、外来では個々の生活環境に合った食事療法の実践方法について、患者さんやご家族に指導しています。指導時に体組成や握力の測定を行い、栄養状態の評価と指導のツールとして活用しています。

集団栄養指導

2020年2月以降、感染対策のため中止していますが、例年は、医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師と協力し、両親学校・減塩教室・糖尿病教室・肝臓病教室・膵がん教室・膵がんメディカル教室等を開催するなど活発に活動しています。

4. チーム医療

病棟担当栄養士制

主担当・副担当の2名体制にて各病棟の栄養管理を行っています。必要に応じて担当病棟の入院診療計画書作成、特別な栄養管理を必要とする患者さんについての栄養管理計画書作成、内容や食形態の調整を行い、早期回復・退院に向けて他の医療スタッフと連携し取り組んでいます。

栄養サポートチーム-Nutrition Support Team(NST)-

医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、臨床検査技師、事務職員等で活動しています。週1回のカンファレンスとラウンド、隔月1回のNST定例会を開催しています。

定期的にNSTニュースを配信しており、『NST介入に関する看護師意識調査の結果』や『栄養剤投与時の水分管理』について紹介しました。

なお、毎年開催している当院多職種講師による勉強会は感染防止対策のために中止となりました。

日本臨床栄養代謝学会・NST稼働施設として認定さ

れております。

緩和ケアチーム

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー等のメンバーで活動しています。週1回ずつのカンファレンスとラウンドに参加しています。

褥瘡対策チームカンファレンス

医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、事務職員等で活動しています。週1回のカンファレンスに参加し、月1回の委員会に出席しています。

摂食嚥下支援チーム

医師、看護師、言語聴覚士、管理栄養士、歯科医師、歯科衛生士で活動しています。隔週1回のカンファレンスに参加しています。

不定期に嚥下食等の試食検討会を行い、嚥下調整食等の見直しを行っています。

心不全リハビリカンファレンス

医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー等で活動しています。週1回のカンファレンスに参加しています。

移植チームカンファレンス

医師(精神科、肝胆膵外科、腎泌尿器科等)、移植コーディネーター看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務職員等で活動しています。月1回程度のカンファレンスに参加しています。

5. 実習生・研修生の教育

実習生の受け入れ

感染対策に留意し、管理栄養士養成校(名古屋文理大学、中部大学、金城学院大学、鈴鹿医療科学大学)、栄養士養成校(三重短期大学)より実習生を受け入れました。献立作成や調理作業を通して、大量調理や給食管理について学び、栄養指導やカンファレンスの見学では、実際に患者さんと接することで栄養管理業務を体験できるようにしています。さらに、看護部、薬剤部、検査部、リハビリテーション部、医事課等、他部門の見学や講義を通して、多職種連携の必要性や、病院の業務についての理解を深めることができるカリキュラムを組んでいます。

また、他部門の実習生・研修生に対しては、見学や講義を通して病院の管理栄養士業務について紹介しています。

■ 活動実績

1. 患者給食数

一般治療食

251,120食(非加算)

特別治療食

165,991食(加算107,699食、非加58,292食)

食堂加算

156,579食

選択メニュー提供料金算定件数

39,845食

2. 栄養指導件数

個人栄養指導 一般治療食

15件(非加算 入院5件、外来10件)

個人栄養指導 特別治療食

入院 1,590件(加算1,285件、非加算305件)

外来 3,264件(加算2,874件、非加算390件)

集団栄養指導

2020年2月以降集団教室は感染対策にて中止

3. その他加算

糖尿病透析予防

47件

栄養サポートチーム加算

569件

緩和ケア診療加算

57件

外来化学療法加算

4件

栄養情報提供加算

13件

4. 臨床研究等の実績

著書

和田啓子. 月刊糖尿病ライフさかえ. 60巻. 日本糖尿病協会. p40-41

講演

服部雅子. 小児がん患者の栄養士としての役割と楽しさ. 第5回小児がん診療体制における東海北陸ブロック多職種連携研修会

和田啓子. 免疫力アップの食事. 三重県栄養士会「栄養

の日公開講座」

森貴宣. 膵がんの方が知っておくべき栄養の話. パールリボンセミナー

石留真寿美. 肝炎コーディネーターを取り巻く最近の話題～栄養士の立場から～. 令和 2 年肝炎医療コーディネーター研修会

宮村みさ子. 肝硬変の栄養指導について～本院の取り組み～. 肝疾患栄養診療ネットワーク

森貴宣. 胃がん大腸がんの方のための食事工夫. 第 14 回市民公開講座

講義

原なぎさ. がん患者への栄養サポート. 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科臨床心理学専攻

和田啓子. 大学病院の管理栄養士について. 鈴鹿医療科学大学看護学部看護科